

## 行事報告

奉納。パフォーマンス@下北・大安寺  
ニルス・バーク・シネマスコープ & 福士正一

北欧から生まれたビジュアル・ジャズ  
+ 東北から生まれた舞踏

去る十月八日（月・祝）、大安寺を会場に開催され、約七十名の方々が来場されました。本行事は、十和田市で参加型オーブンスペース「1454」を運営し、また、翻訳・Web制作を手掛ける「株式会社クインアンドカンパニー」のマイケル・ウォーレン氏が企画したもので、北欧ジャズ界において常に注目を集めるビジュアル・ジャズバンドであるニルス・バーク・シネマスコープと舞踏家・福士正一氏のコラボ公演です。

飛行機で約十時間かけて来日したニルス・バーク・シネマスコープのメンバーは、青森にて福士正一氏と合流。青森港周辺や仏ヶ浦で公開リハーサル・撮影を行った上で、大安寺に来寺しました。

公演に先立ち、本堂に楽器を設置し、スクリーンを貼り、またプロジェクターを設置した後、入念なりハーサルを繰り返しましたが、開演前にマイケルが体調不良で倒れるというアクシデントが発生。また、ドラムのクリス氏もそれに続いて



撮影：福士輝子



体調不良となり、開催が危ぶまれました。

しかし、ご来場くださった皆さま、照明を担当くださった佐藤勝秀氏、受付・交通誘導を担当くださった下北若手有志、福士正一氏の奥様でフォトグラファーの福士輝子氏、バンドスタッフのご協力のお蔭で公演を開始することができました。

公演は、曹洞宗第八教区青年会員による「地藏歎偈<sup>たんげ</sup>」にて開幕。これまで青森県内各所で撮影した映像を投影したスクリーンをバックに、サクソフォンのニルス氏、ベースのヨセフ氏の演奏と、福士正一氏の舞踏が幻想的に繰り広げられ、来場者を夢と現実のはざまに誘ってくれました。公演のフィナーレでは、福士氏が本堂の入口から山門前に飛び出るという一幕もあり、福士氏が長年取り組んできた舞踏の醍醐味を堪能しました。

公演後の交流会では、来場者のお一人が同時通訳を買って出てください、ニルス氏、クリス氏、福士氏と来場者との質疑応答が行われ、交流を深めました。スウェーデンは青森と気候や獲れる魚などに多くの共通点があり、再びの再会を誓って、無事閉幕することができました。ご来場・ご協力くださった皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

☆ニルス・バーク・シネマスコープ公式HP  
<http://www.nilsbergcinemascope.com>



## 活動報告



全国のお寺の「おそなえ」  
仏さまからの「おさがり」  
みんなに「おすそわけ」



<https://otera-oyatsu.club/>

運営：特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

平成二十九年国民生活基礎調査（厚生労働省）によれば、日本の子どもの貧困率は十三・九％。実に七人に一人、約二八〇万人に及ぶといわれています。また、日本の貧困問題の特徴は、一見すると気づきにくく、見えにくいこと。食生活や服装も普通に見えるものの、十分な食事がとれず、学習環境が整っていないケースが多いのです。

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされる「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする全国の支援団体を通して、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。このほど、その活動が評価され、「二〇一八年度グッドデザイン大賞」を受賞しました。当寺でも五年前から活動に協力させていただいており、現在は弘前市の支援団体に、飲料・調味料・レトルト食品などを定期的に「おすそわけ」しております。また、頂戴したお米については、東京のフードバンクに「おすそわけ」しております。

引き続き、皆さまからの「おそなえ」を「おすそわけ」する活動に努めて参ります。